

2025年3月24日
法人本部

2025年度 事業計画書

学校法人 大同学園

撮影 鈴木文人

1 はじめに



建学の精神

大同大学：「産業と社会の要請に応える人材の養成」

大同大学大同高等学校：「社会で有為な人材の育成」

学校法人大同学園の責務は、社会で活躍する人材を輩出することにあります。

少子化が進む中で、本学園は、大学・高校を合わせて毎年 1,000 名を超える学生・生徒を迎え入れています。本学園には、学生・生徒を変化の激しい社会においても活躍できる人材へと育成し、社会に送り出すという大きな責任があります。

大学では、2020 年に「DAIDO VISION 2030」を策定し、学生の行動指針を「自分が変わる、未来を変える。」としました。専門的な知識や確かな技術力の修得とともに、学生生活全般を通して、「自ら課題を見つけて解決する力」、「他者と協働するコミュニケーション力」、「新たな価値を生み出す創造力」を身につけて欲しいと考えています。また、自らの未来を力強く変えていくというメッセージは、学生だけでなく私たち教職員も未来に向けて変わっていこうという決意表明でもあります。

未来を変える当事者として、学生と教職員が共に成長できる大学を目指します。

一方で、社会構造の変化や価値観の多様化が進み、高等教育機関として私立大学が果たすべき役割は、年々、高度化、複雑化し、私立大学を取り巻く環境は刻々と変化しています。大学間の競争も年々厳しさを増し、日本私立学校振興・共済事業団の「入学志願者動向調査」によると、2024 年度に「入学定員割れ」となった私立大学は、過去最高であった 2023 年度の 53.3% (320 校/600 校) からさらに 5.9 ポイント上昇し、59.2% (354 校/598 校) となり、およそ 6 割もの大学が入学定員割れとなりました。2022 年度は 47.5% (284 校/598 校) であり、わずか 2 年間で定員割れの私立大学は校数にして 70 校増加、その割合は 11.7 ポイント上昇したことになります。

また、私立高校を取り巻く環境も、大学と同様に大きく変化しています。特に愛知県下における中学校卒業者の工業科離れは深刻で、県内の工業科を有する公立高校では、18 校中 12 校が定員割れとなっており、工業科を中心に入学者確保に向けた環境は、厳しさを増しています。さらに、「県立高等学校再編将来構想」に基づき、2025 年度より、明和高校、半田高校、刈谷高校、津島高校の 4 校を県立中高一貫校の第一次導入校として募集が開始されました。導入初年度の志願者数は明和高校附属中学校の普通コースが定員 80 人に対し 1,364 人 (志願倍率 17.1 倍) で最多となり、期待の大きさが伺えます。2026 年度には、第二次導入校として、豊田西高校附属中学校 (普通コース)、時習館高校附属中学校 (普通コース)、西尾高校附属中学校 (国際探究コース) の 3 校の新設が決定しており、今後も県立高校の魅力化・特色化、再編に向けた取組みによる影響を注視していく必要があります。

第 1 期中期計画 (2020 年 - 2024 年) の最終年度となった 2024 年度は、これまでの 5 年間の取り組みを総括すると共に、1 年をかけて第 2 期中期計画の策定を進めてきました。2025 年度は、第 2 期中期計画「建学の精神の具現化により、選ばれる学園へ」の方針に基づき、更なる改革に取り組みます。

2 事業計画

第2期中期計画の推進について

ビジョン

建学の精神の具現化により、選ばれる学園へ

建学の精神
 大学:「産業と社会の要請に応える人材の養成」
 高校:「社会で有為な人材の育成」

大学:「DAIDO VISION 2030」→「自分が変わる、未来を変える。」
 高校:最上位目標→「すべての生徒に<汗と愛>の経験を」

目標

第2期中期計画達成を目指し、学園・大学・高校は次の具体的な目標を掲げる。

- － 産業界から真に求められる人材を育成し、輩出する学園
- － 「DAIDO VISION 2030」を実現し、近隣競合大学より選ばれる大学
- － 先進的な教育実践の追究により選ばれる高校

骨子

<p>I. 学生、生徒募集活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 共 志願者・入学者の確保 大学886人 高校480人 共 女子学生・女子生徒比率20%へ 共 広報活動の強化 (教育・研究、クラブ活動、学生生活…) 高 工業科の魅力発信 	<p>VI. 地域連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 共 地域と一体となった防災体制 共 地域活性化への貢献
<p>II. 学修者本位の教育・教育の質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 共 個別最適+協働的学びの実践 大 教学マネジメントにおけるPDCA確立 大 学部・学科等編成の見直し 高 授業改革/部活動指導のあり方検討 	<p>VII. グローバル化</p> <ul style="list-style-type: none"> 共 海外協定校の開拓/相互に留学生派遣 共 在留外国人増加を見据えた対応 共 多様な海外研修の機会
<p>III. 研究力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 大 産学・地域連携研究テーマの推進 大 研究推進のための環境整備 	<p>VIII. 高大連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 共 大同高校からの入学者数100名へ 共 高大が連携した探究学習の展開 大 高大連携の他校への水平展開
<p>IV. キャリア教育と就職支援・進学支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 共 中部産業界との関係強化 共 卒業生との連携強化 共 リスキリング支援 	<p>IX. 卒業生との関係強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 共 同窓会との連携強化/ホームカミングデーの実施 共 卒業生メンター制度の導入 共 卒業生が活躍する企業・団体との連携強化
<p>V. DX化の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 共 教育のDX化/ハイブリッド教育 共 学生・生徒へのDX教育 共 事務部門への活用 	<p>X. 財政基盤の安定と組織ガバナンス強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 共 健全な財務の維持 共 2030年以降を見据えたインフラ更新計画 共 資金運用によるインフレリスクヘッジ 共 コンプライアンス体制の整備 高 収支均衡施策の展開
<p>XI. 学部・学科・教養部の在り方検討</p>	
<p>共 … 学園・大学・高校共通 大 … 大学・大学院 高 … 高校</p>	

I 学生・生徒募集活動

大学

厳しさを増す入学者確保の現状を踏まえ、入学定員に占める総合・推薦系比率 60%を目指し、OC への誘導強化、工学部広報強化、新たに誕生した大学公式マスコットキャラクターを用いた広報を展開するなど、総合・推薦系入学者確保の強化策を推進します。また、大同高校からの入学者数 100 名を目指し、併設校対象の大学見学会や模擬授業など生徒との接触機会を増やし、大学の魅力を PR します。

高校

中学生の工業科離れが深刻な現状を踏まえ、大同大学との高大連携によるデジタル人材の育成プログラムの構築に着手し、DX ハイスクール認定校を目指した取り組みを推進するとともに、工業科のコース再編の検討を開始し、工業科入学者 240 名の確保を目指します。

II 学修者本位の教育/教育の質向上

大学

第 1 期中期計画では、教育の質向上の PDCA サイクルの確立に向け、アセスメント・ポリシーを見直し、新たにアセスメント・プランを定めました。明確になった評価指標に基づき、IR 活動を推進し、教育改善、休退学の抑止に向けた取り組みを進めます。

高校

高校全体のカリキュラムの再編、工業科のコース再編、総合的な探究の時間の在り方について検討を進めます。

工業科はスーパーサイエンスハイスクール (SSH) 指定校認定を目指します。

III 研究力強化

大学

2025 年度より新たに産学・地域連携研究テーマの推進を目的に設置した、研究・社会連携推進ラボ制度の本格運用を開始します。

また、本学の研究活動の対外的アピールの強化策として、DU リサーチガイドの内容の充実、活用の拡大を図ります。

IV キャリア教育と就職支援・進学支援

大学

2024 年度から開始した、大同特殊鋼グループ企業による学内企業説明会の充実を図り、グループ企業との就職に関する連携強化を目指します。

また、キャリア教育を教育課程に取り入れ、正課科目として適切に実施するための、検討を開始します。

高校

企業との連携による探究型のキャリア教育の推進および工業科生徒だけでなく、対象を普通科生徒にも拡大して、キャリア教育を目的としたインターンシップ教育の推進を図ります。

V DX 化の推進

大学・高校共通

学内事務系システムのシングルサインオン化およびオンライン決済システムへの移行について検討を始めます。

大学

学内システムの認証基盤統一、セキュリティ強化に向けて多要素認証の導入を検討し、計画を策定します。

また、学内メールシステムの統合についても計画を進めます。

高校

教員が教育に専念できる環境を整えるために、DXによる教員の業務の自動化・効率化を目指し、RPAの導入に向けた準備を進めます。

また併せて、自動成績管理、授業計画ツールの導入による授業のDX化の推進に向けた準備も進めます。

VI 地域連携

大学

地域と一体となった防災体制、地域活性化への貢献を目指し、現在の学内における社会・地域との連携活動状況の実態調査および地域・企業からの連携ニーズの調査を進めます。

高校

企業によるレベルの高い安全教育、高校での学びが社会でどのように役立つのかを実感できるキャリア教育など、地域企業との連携による実学教育の実践に向けて、教育活動への協力企業の誘致を進めます。

VII グローバル化

大学・高校共通

グローバルな活動を通じた人材育成として、近隣地域において外国にルーツを持つ子供たちへのボランティア活動など、高校生と大学生が一緒に取り組める地域活動の基盤づくりに着手します。

また、グローバル人材の養成として、高校では積極的な短期留学生の受入れを進めると共に、これまでの海外研修制度の内容を見直します。大学では、高校の研修制度の見直しに合わせて、大学生も同制度による海外研修への参加を視野に、外

部機関を活用した短期留学制度の活性化に着手します。

VIII 高大連携

大学・高校共通

2024年度より開始した高大連携探究学習を継続するとともに、高大で意見交換しながら他校への展開も視野に入れて、今後の探究学習の在り方について検討を進めます。

また、大学は、大同高校のDXハイスクール認定校への申請および運営を支援します。

探究学習プログラム、DXハイスクールプログラムなどの高大が関わるクロスイベントを通じて、高大の教職員、および生徒と学生の顔が見える関係の構築を目指します。

IX 卒業生との関係強化

大学・高校共通

サポート企業制度“Daido Supporters!”を設置し、インターンシップ、探究学習、安全教育等をはじめとした様々な教育活動において、卒業生が在籍している企業をはじめ、大同特殊鋼グループ企業、地元の中小企業などの協力を得て、実社会で求められるスキルを学ぶことで、学校から社会へシームレスな人材育成を目指します。

大学

大学と卒業生の継続的な繋がりを維持し、さらには卒業生同士のネットワーク確立を目指したホームカミングデーを開催します。

高校

校内分掌と同窓会事務局との連携を高めることで、高校と卒業生のネットワークを強化し、高校からの情報発信はもちろん、高校が卒業生の近況を把握できるシステム構築に着手します。

X 財政基盤の安定と組織ガバナンスの強化

大学・高校共通

【財政基盤の安定】

健全な財務の維持のために、学園を取り巻く環境を注視し、リスクの影響度を検証することで、中期収支計画の精度向上に努めます。

また、補助金収入は、学納金収入に次ぐ重要な収入源であり、将来の少子化進行を見据えると学園の収支における重要性は一層増すと予想されることから、高校、大学ともに様々な教育改善に取り組み外部補助金の獲得を目指します。

第2期中期計画の計画年度内にとどまらず、20年先を見据えた建物・設備更新計画に基づき、校舎・設備の予防保全に努め、施設の高寿命化を図ります。

【組織ガバナンスの強化】

危機管理体制の充実・整備のため、危機対応マニュアルの作成に着手します。

また、私学法改正に伴い、新たに整備が求められるコンプライアンス体制の構築に向け、理事会・評議員会・監事会の運用、内部統制の整備・運用に努めます。

XI 学部・学科・教養部の在り方の検討

大学

2024年度には、本学を取り巻く環境分析及びその環境分析からみえる本学の課題を取りまとめ、検討を進めてきました。

今後の大学教育には、専門知識の深化だけでなく、幅広い視野を持ち、実社会で応用できるスキルを身につけることが求められており、それを実現するために分野横断的なカリキュラムの整備が必要となります。

なお、2025年度以降に学部または学科の改組再編を行う場合には、「全学部・大学全体での基幹教員制度の導入」が必要となるため、本学においても基幹教員制度の導入に向けて準備を進めます。